

黒埼南ふれあい協議会ニュース

第26号

ふれあいかわら版

『茶豆ふれあいライン』道路愛称を命名!!

去る11月29日(火)、黒埼南ふれあい協議会(新潟燕線他愛称選定委員会)と新潟市立黒埼南小学校が、黒鳥地内から木場を経由して板井地区の南区境界までの、県道新潟燕線と市道黒埼2-106号の一部に道路愛称を命名し、鈴木亨新潟市西区長に提言し命名が決定しました。

道路愛称の西区長への提言は、午前10時から区役所2階の会議室で行われ、黒埼南ふれあい協議会の江端直樹会長ら三役、加藤雅之黒埼南小学校長と3人の児童代表が出席しました。

児童達が、提言に至る経緯を詳細に報告しましたので、ご紹介いたします。

種村昂洋(6年生・板井)

「今日、僕たちが毎日使っている学校の前の道路につける愛称を考えてきました。この道路は、僕たちみんなの大事な通学路です。歩いて通学する友だちもとても大勢いますし、スクールバスもこの道を通っています。友だちの家に行くときも、よく自転車で通ります。

今までも、とても多くの車が利用していると思っていましたが、今年になって黒埼南部公民館や文化財センター、みどり森の運動公園ができて、もっと多くの車が通るようになったと聞きました。

僕たちだけでなく、地域の人たちや、この道を使う多くの人たちが、大切にしていくことで、安全に気持ちよく歩ける道路となると思います。

道路を大切にすることをいつまでももっていられるように、学校のみんなで親しみやすい愛称を考えました。」

小柳 蘭(2年生・木場)

「私は、道路の両側に茶豆畑が広がっているので、『茶豆』がつく愛称を考えました。もうひとつ、黒鳥と木場と板井をつないでいて、とてもおおぜいの人を使う道なので、みんながふれあえるように、『ふれあい』という言葉がつく愛称も考えました。

『茶豆』と『ふれあい』の二つの言葉がつく

愛称はおぼえやすいし、みんなの気持ちがこめられていて、とてもいいと思います。おおぜいの人におぼえてもらって、みんなでたいせつに使っていきたいと思います。」

相田 尋(1年生・黒鳥)

「ぼくは、『みち』とか『どうろ』という名前より『ライン』がかっこいいとおもいました。みんなで考えたあいしょうは、おおぜいの人がおぼえてくれるとおもいます。」

種村昂洋(6年生・板井)

「僕たちもこの道路を安全に通ったり、大事に使ったりしていくので、みんなで考えた愛称をこの道路の愛称にしてください。みんなで考えた愛称は、(3人で)『茶豆ふれあいライン』です。よろしくお願いします。」

これに対して鈴木亨西区長は、
「良い名称をつけていただきました。枝豆が植えられている良い環境にあって、多くの人たちに親しめるような道路となるよう希望します。交通事故にも気をつけて勉強に励んでいただきたい。」旨を述べて、ねぎらいの言葉をかけておりました。

また、同席していた加藤雅之校長は、「当校児童が毎日の通学などで通っている道路に児童自らが愛称を付けることで、道路の大切さを理解し、安全かつ快適に利用していくことや、広域的な地域のPRにもつなげることを目的に、校内で親しみやすい愛称を募集しました。

大勢の児童から様々な案の応募がありまし



鈴木亨西区長に提言書を提出する3人

たが『茶豆』、『ふれあい』という地域の大切なキーワードが数多く見られ、これに親しみやすさを加えて『茶豆ふれあいライン』という愛称を提案させていただきました。

「今後は、安全に快適な道路環境が維持されるよう、地域とともに植栽や清掃などの活動に取り組んでいきたいと考えています。」と述べておりました。

決定した『茶豆ふれあいライン』の沿道には、「みどり森の運動公園」や「黒埼南小学校」、「越後中央農協」、「埋蔵文化財センター」、「黒埼南部公民館」が建ち並び、春には地元特産の茶豆畑が連なり壮大な景色が広がります。

今後は学校とも連携しながら、地元の方々を中心に道路清掃や花の植栽を実施していく予定とのことです。



提言を終えて記念撮影

輪投げ大会、健康で 快適なレクリエーション!!

去る11月27日(日)、黒埼南部公民館において、健康福祉部会が、健康増進と運動不足解消と親睦と融和を促進するため、黒埼南ふれ協輪投げ大会を企画しました。

輪投げ大会は、用具・コート・人数・服装・老若男女に大きな制約もなく、大人達に小学生も加わって楽しいひとときを過ごしました。

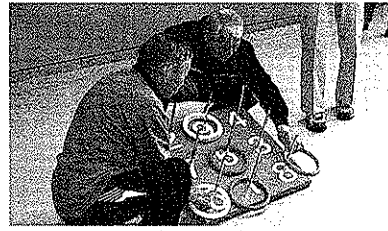
輪投げの競技は、健康づくりと仲間づくりにも最適であるとして老寿会などに広く普及しております。人数や場所も問いませんし、運動量もほどほどで誰でも楽しく参加できます。

投げる姿勢、呼吸の整え方、力の加減、輪を放すタイミングが全身を刺激します。投げるときの緊張、入ったときの快感がストレスを解消します。そして、しらずしらずに足腰の動きを良くします。

輪投線と得点台との距離は、通常5mですが、この日の競技は3mとし、1チーム9人で2チームが得点を競いました。

ゲームの進め方は、先ず競技者の投げる順番を決めます。次に競技者は片手に9個の輪を持ち、片手で1個ずつ目標のピンに向けて投げます。9個投げ終えたらピンに入っていない輪を集め、次にピンに入っている輪の得点を数えて他の競技者の確認を受けます。

得点が決まったら、残っている輪を集めて輪



得点確認の様子

投線に待機している次の競技者に渡します。

得点の集計は暗算ですので、ぼけ防止には効果的のようです。

縦、横、斜めに3つ並んで入ったときは一列につき15点が加算されます。

投げた輪が全部のピンに入ったときは、一列の合計得点15点×8列×2+パーフェクト点60点を加算して300点になります。因みにこの日の最高得点は52点でした。

投てきの様子

ここで、輪投げ大会の語録をご紹介します。「いやー、運動会の時の輪投げと全然違うんだね」「この輪投げ



は意外と面白いね」「7を狙うと15点が加点されるぞ」「オー、入った」「計算があるから頭がぼけないでえ」「アァー、なかなかはいらねえんて」「オー、すごい」「オットー、オー」「いいとこに入ったね」「慣れてくるとかえってダメらて」「それ頑張れ」「良かったね、零点でなくて、アハハ」「オー、すごい」「オー、並んだろ」「よしよ、よしよ、アァー」「得点を間違えると悪いからもうちょっと待ってね」…と云った調子でとにかく楽しい競技です。

広報伝達の手段としての掲示板

このたび、木場八割(戸数119)集会所の敷地内に掲示板が設置されました。

この掲示板は、市役所を始めさまざまな関係機関から広報伝達の手段としてポスター、文書等の掲示物を掲示する施設として設置されました。掲示内容は、自治会長が管理することとして、公共の秩序を乱すおそれのあるもの、政治活動または宗教活動に係るもの、営利を目的としたものについての掲示物は、掲示できないとしております。また、掲示板に掲示物を掲示しようとする者には自治会長に申し出るようになっております。今まで掲示板が設置されていなかったこと自体が不思議であったと関係者は語っており、遅ればせながらの設置を歓迎しております。



木場八割自治会の掲示板